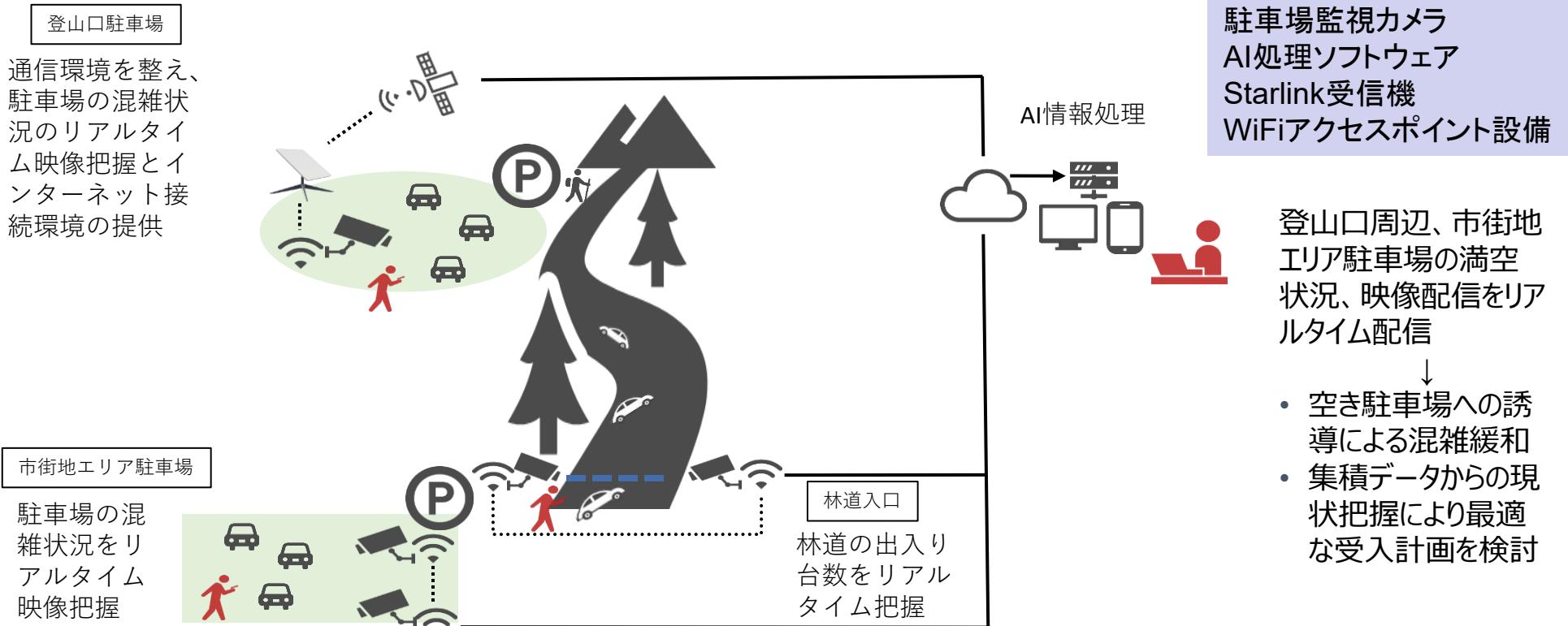
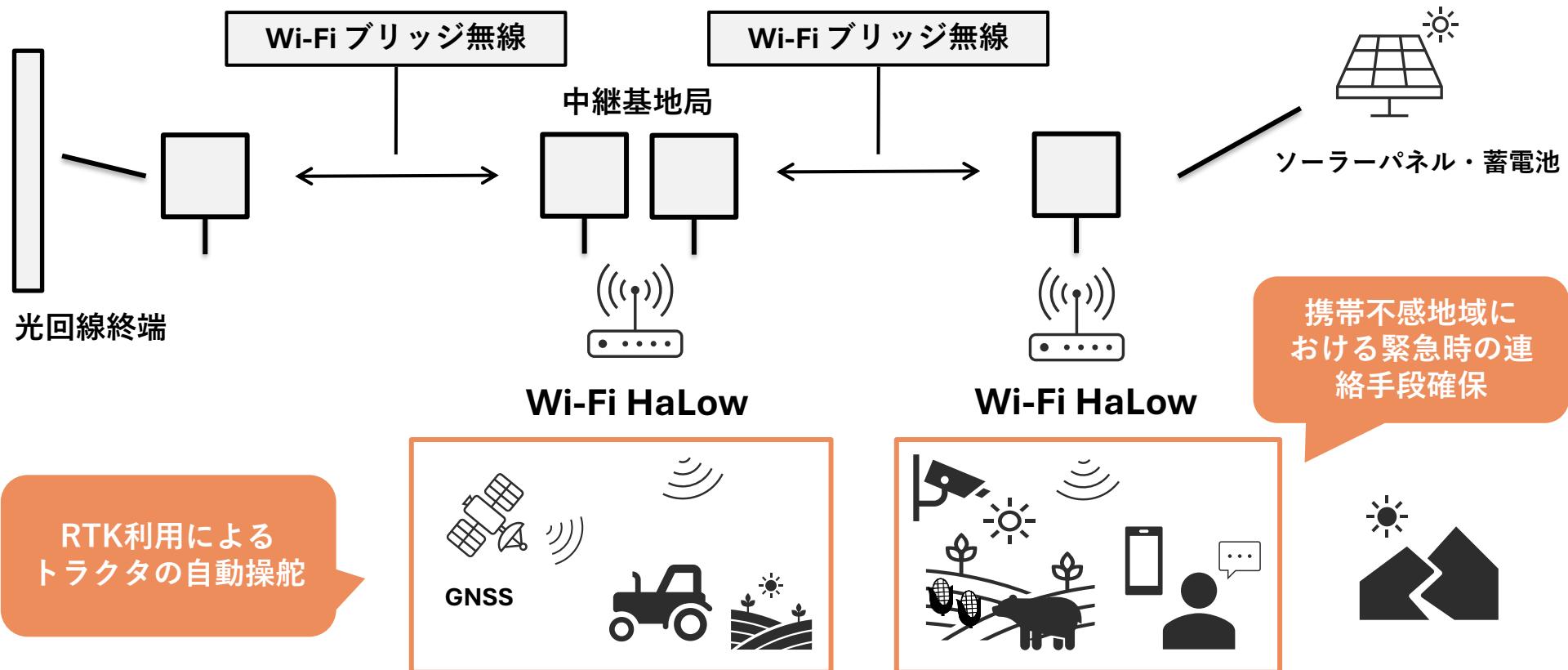


観光地での渋滞可視化や二次利用の事例

- 登山口や観光地の駐車場では、慢性的な路上駐車や生活道路の渋滞が発生。物損事故、登山者の満足度の低下に。
- 山間部でもつながる通信環境を構築し、駐車場の混雑状況をリアルタイムで可視化。
- 情報を来訪者に提供することで空き駐車場への誘導や二次交通の利用を促す。

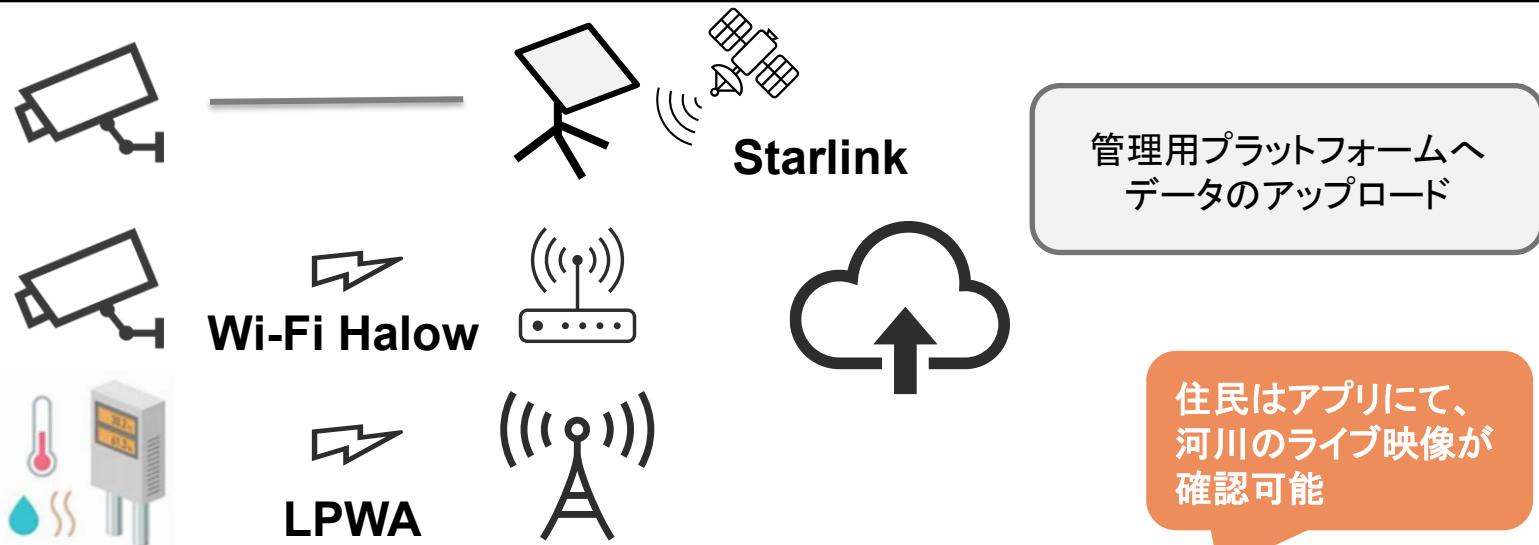


- 携帯電波の不感地域では自動操舵トラクタの運用や緊急時の連絡手段が課題。
 - Wi-Fi HaLow等を活用した中山間部での通信環境を構築し、RTKを利用した自動操舵システムの導入による農地の担い手確保、また、自然災害や鳥獣害等の緊急時の連絡手段確保を目指す。



LPWA等を活用した河川監視の事例

- 近年ゲリラ豪雨等により短時間に水量が増加することによる河川氾濫被害が深刻化し、防災情報発信が課題。
- LPWAを活用したIoT水位計やWi-Fi Halow・Starlinkを活用したIPカメラを整備し、水位データの一元管理とカメラ映像の住民アプリ配信で、効率的な防災運用と迅速な情報発信を目指す。



職員は水位センサーを
IoTダッシュボードにて確認、
住民への迅速な情報
発信に活用



IoTダッシュボード



住民はアプリにて、
河川のライブ映像が
確認可能

管理用プラットフォームへ
データのアップロード

- 地震・豪雨など発災害時の課題を踏まえ、孤立集落との災害時における連絡手段の確保が急務。
- 平常時は地域交流、災害時は避難所となる地域拠点に、衛星通信、デジタルサイネージ、避難所管理システムを整備し、フェーズフリーで活用。

1. 通信環境の強靭化

- Starlinkの導入
- 蓄電池の導入

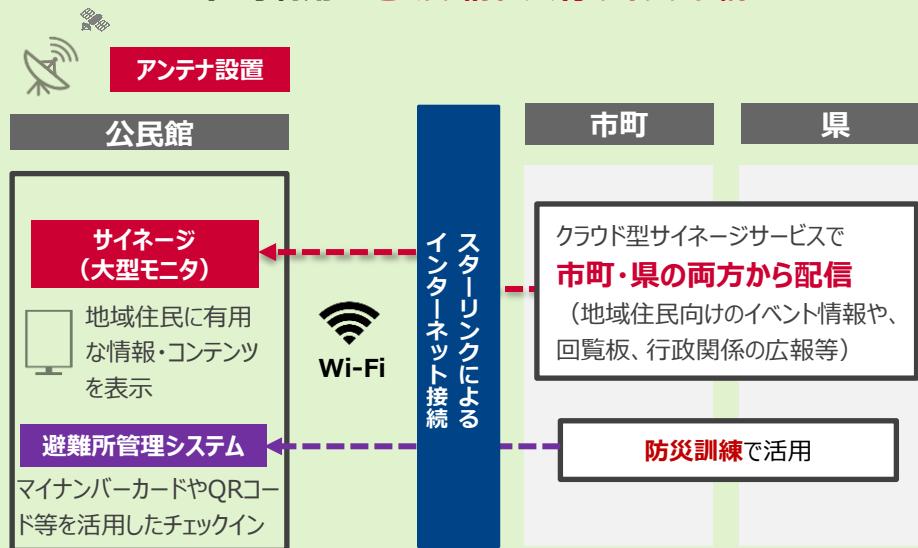
2. 情報発信モデルの構築

- デジタルサイネージの導入
- 市町・県と連携した情報発信

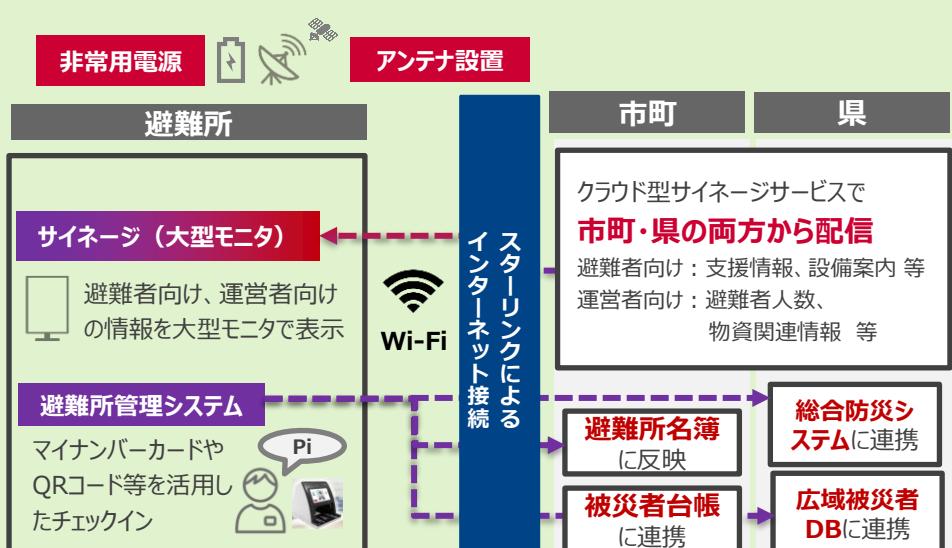
3. 防災システムの導入

- 避難所管理システムの導入
- 市町・県の防災システムとの連携

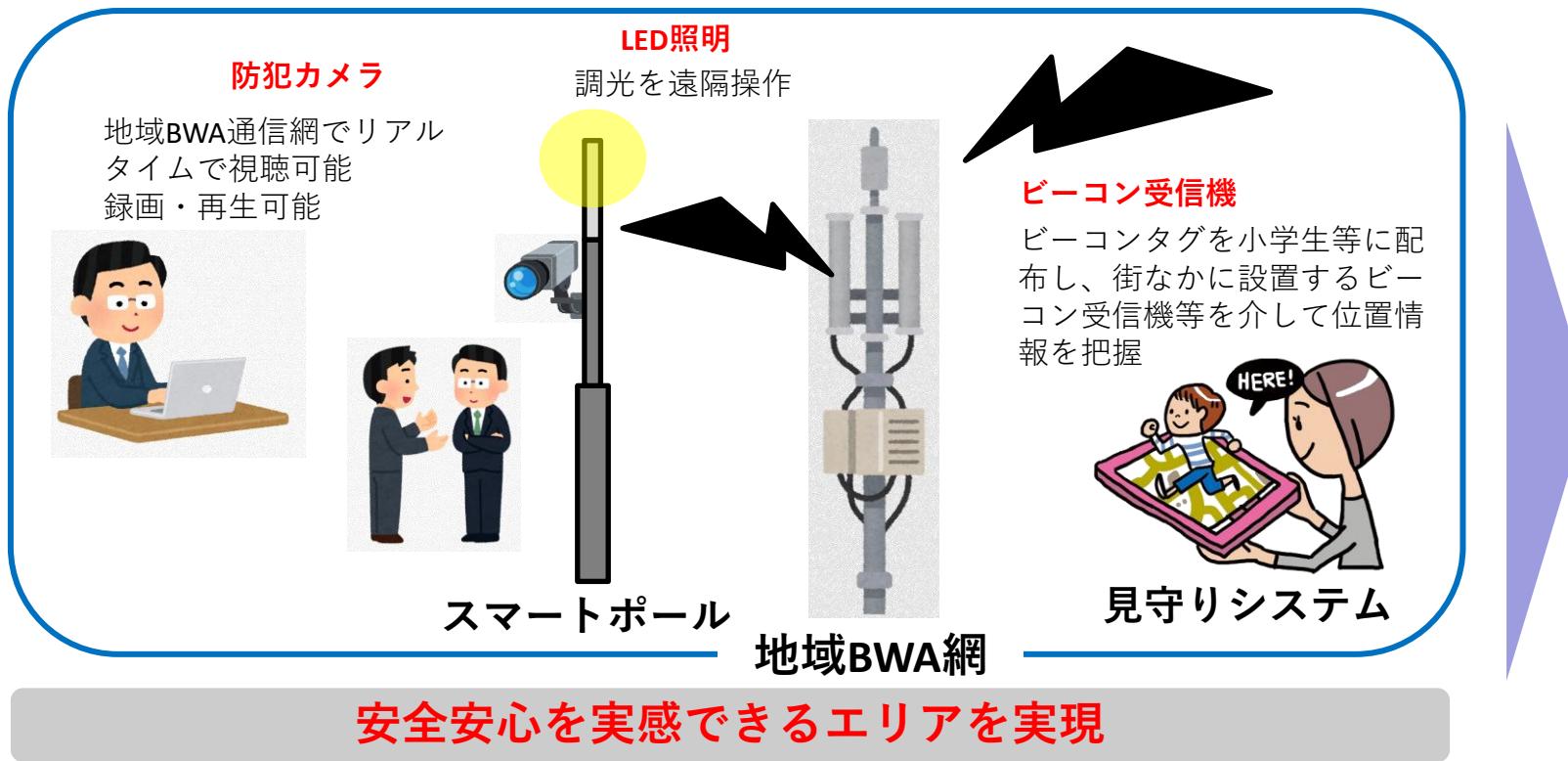
平時利用：地域の情報共有のインフラ網



有事利用：災害に強いレジリエントな情報インフラ網

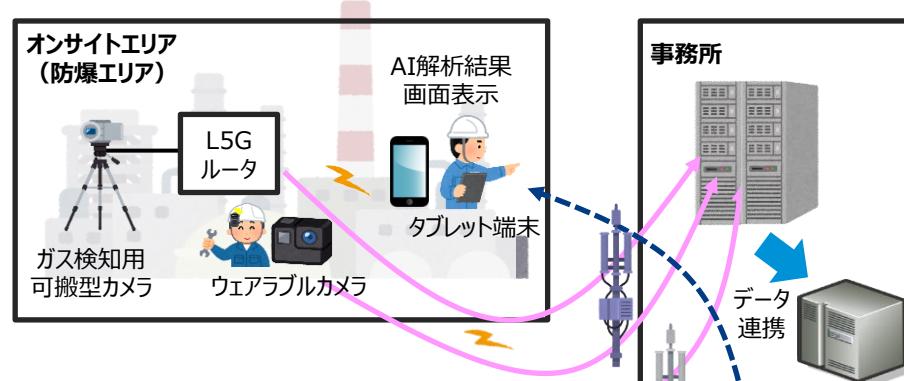


- 若者の移住・定住の促進や、子どもをはじめ地域住民の安全安心の確保が課題。
- 地域BWAによる無線で、街灯や遠隔で視聴できる防犯カメラを接続することで、地域全体の防犯システムを構築し、安心・安全を確保。
- BLEビーコンタグを小学生や徘徊のおそれのある高齢者に所持してもらい、街中の受信機を介して通過の通知や、位置情報の把握で、地域の見守りの仕組みを実現。

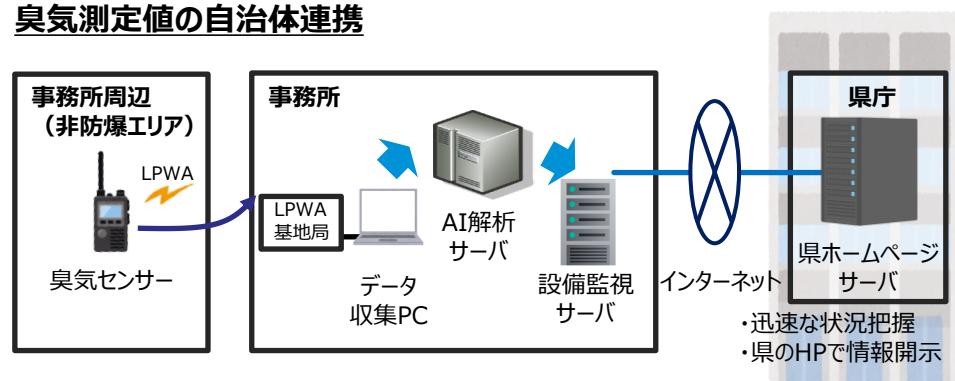


- 人口減少・設備老朽化・医療過疎という複合的な課題に直面。
- ローカル5G等を活用した港湾内における不審者の検知、AI画像解析を用いたガス検知および傷病発生時のオンライン医療及び119番映像通報システムとの連携を導入し、持続可能な地域経済の構築と安全確保の両立を目指す。

AI画像解析によるスマートメンテナンス



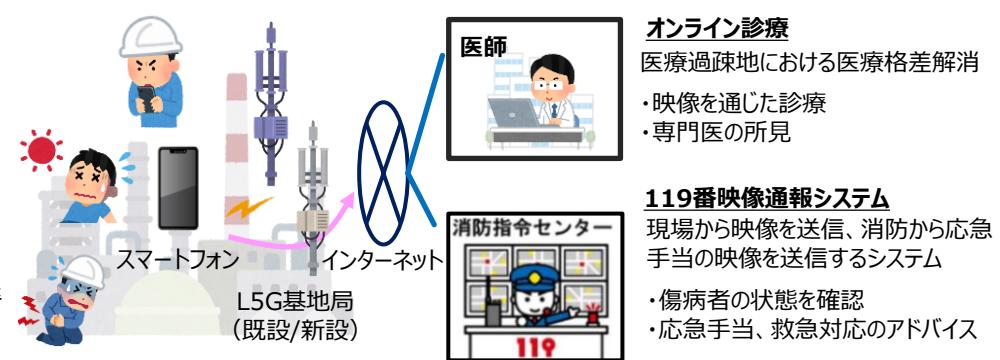
臭気測定値の自治体連携



不審者・侵入者検知



傷病発生時のオンライン診療・119番映像通報システム活用



救急搬送における遠隔連携の事例

- ローカル5G等を活用し、救急車と搬送先病院や、2次、3次救急機関の間に4K映像伝送システムを導入。軽症者の3次救急先への搬送の集中の回避や、転院の緩和を図る。

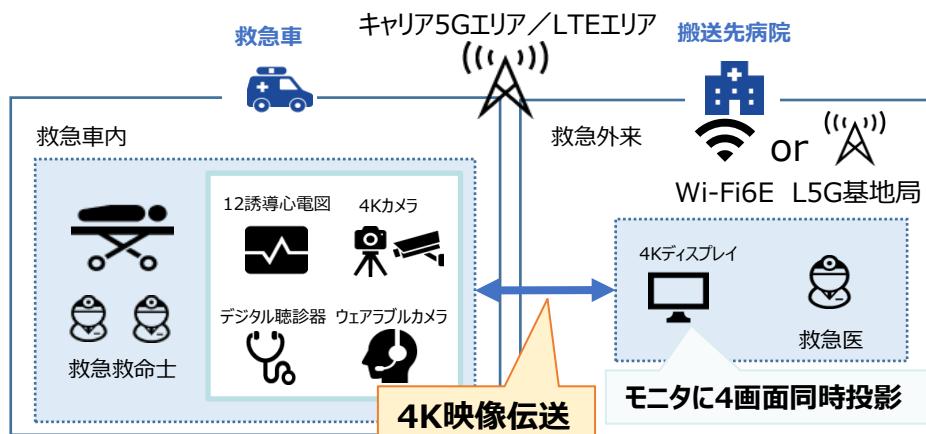
※ 二次救急は入院や手術を必要とする患者に対する救急医療。三次救急は重篤患者や特殊疾病患者に対する救急医療。

3次救急搬送患者の内、
36%は軽傷患者



- 救急医療に係る医療従事者の業務量対策
- 圏域による医師の偏在の改善
- トリアージ効率化によるメディカルコントロールの質向上

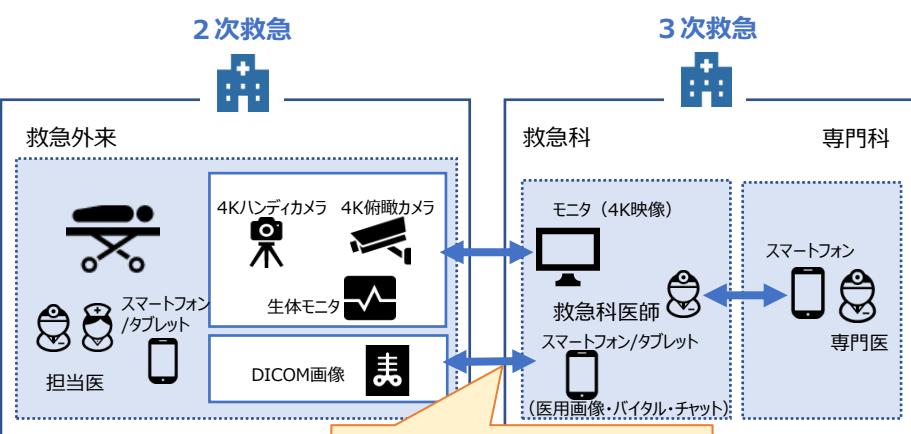
救急車一搬送先病院間の4K映像伝送システム



効果

映像・心電図等のデータを共有しながら、遠隔の救急医によって、救急隊員への助言が可能に
⇒メディカルコントロールの質が向上

2次救急-3次救急間の4K映像伝送システム



効果

映像・バイタル等のデータを共有しながら、2次救急医師に3次救急専門医が遠隔でコンサルテーション可能に
⇒軽症者への適切な処置、転院搬送判断の適正化につながる